

# 00 萩外荘（てきがいそう）について

「萩外荘（てきがいそう）」は、昭和二年に、建築家 伊東忠太の設計により、医師で大正天皇の侍医頭（じいのかみ）も務めた入澤達吉の別邸として創建された。

庭には楓（かえで）が多く、入澤はこの別邸を「楓萩荘（ふうてきそう）」と呼んでいた。

その後、内閣総理大臣を三度務めることとなる近衛文麿に譲渡され、近衛の後見人だった西園寺公望により

「萩外荘」と名付けられたのは、昭和十二年のことである。

同年六月、第一次近衛内閣が発足。

その半年後には、多くの要人がこの地を訪れるようになった。

昭和十五年から十六年にかけては、

歴史的にも知られる日本の対外政策の重要な会談が

萩外荘で行われた。

太平洋戦争終戦後の昭和二十年十二月、

G H Qに出頭を命じられた近衛文麿は、

萩外荘の自室にて自決するに至った。

昭和三十五年には、萩外荘の東側部分の玄関、応接間、

客間などが豊島区駒込にある天理教東京教務支庁の敷地に

移築され、建物は二つに分かれた。

平成二十四年二月に、萩外荘の所有者であった

近衛文麿の次男 通隆氏逝去ののち、

地元十町会長の連名で『「萩外荘」に関する要望書』が

杉並区に出された。

これを受け、平成二十六年に、

杉並区は萩外荘の土地及び建物を取得した。

平成二十八年三月には、

この地が日本政治上重要な場所であるとして、  
国の史跡に指定された。（国指定史跡「萩外荘（近衛文麿旧宅）」）

杉並区は、萩外荘を復原・整備し、適切に保存・活用することにより  
その価値を杉並区の内外に広く伝え、次世代に確実に継承していく。



# 01 萩外荘復原・整備プロジェクトとは

国指定史跡

「萩外荘（近衛文麿旧宅）」を、

近衛居住時代の姿に復原し、

史跡公園として

整備する取り組みです。

史跡公園は、

令和6年12月の公開を

目指しています。

国指定史跡である

萩外荘の復原・整備は、

区民の方のみならず、

日本全国の幅広い方々に、

寄附を通じて賛同を得ながら

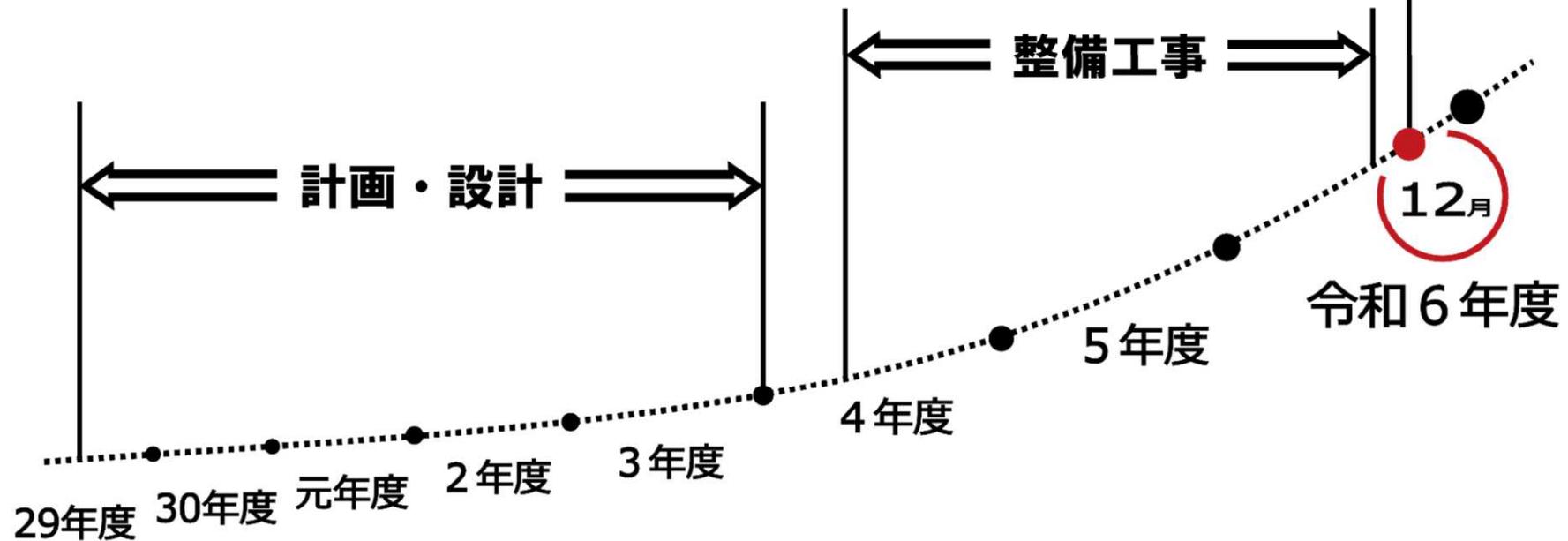
進めて行きたいと考えています。



# 02 事業スケジュール

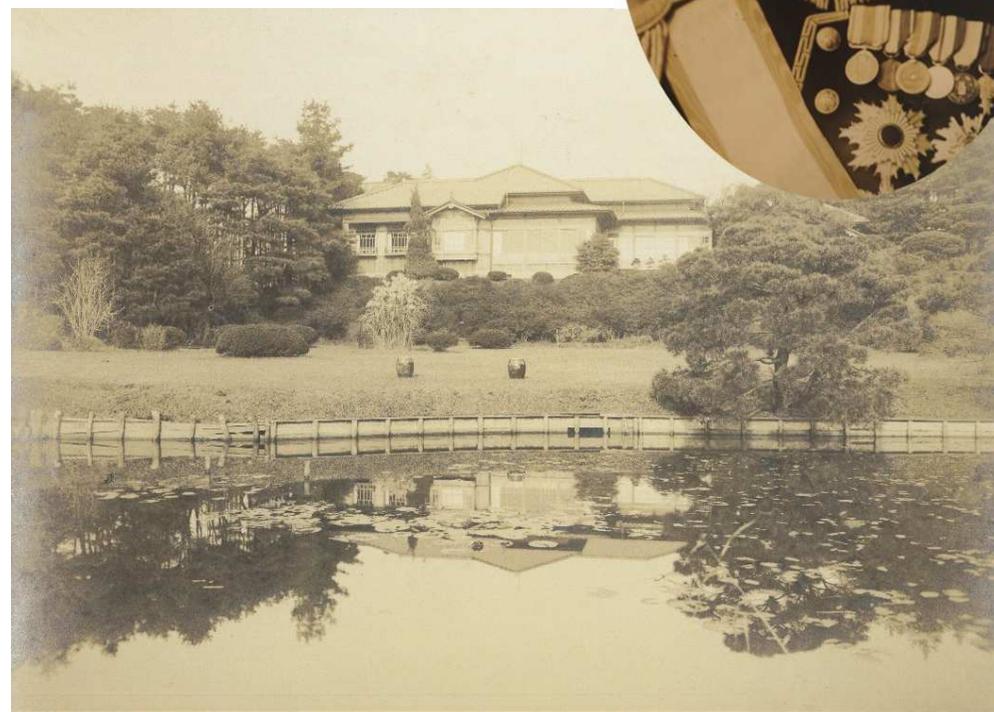


公開予定



# 03 復原設計の考え方

近衛文磨



創建時の萩外荘（個人提供）

萩窪に現存する居住棟を改修しつつ、  
豊島区に移築されていた客間棟を  
元の位置に再移築し、  
戦前の建物を復原します。  
川沿いに広がる台地という  
萩窪の地形を生かして作られた  
庭園も段階的に再現することで、  
郊外の別荘地から住宅地へと発展した  
萩窪の歴史と、萩外荘の豊かなみどりを  
体感できる場とします。



# 04 建物



伊東忠太  
(日本建築学会建築博物館蔵)

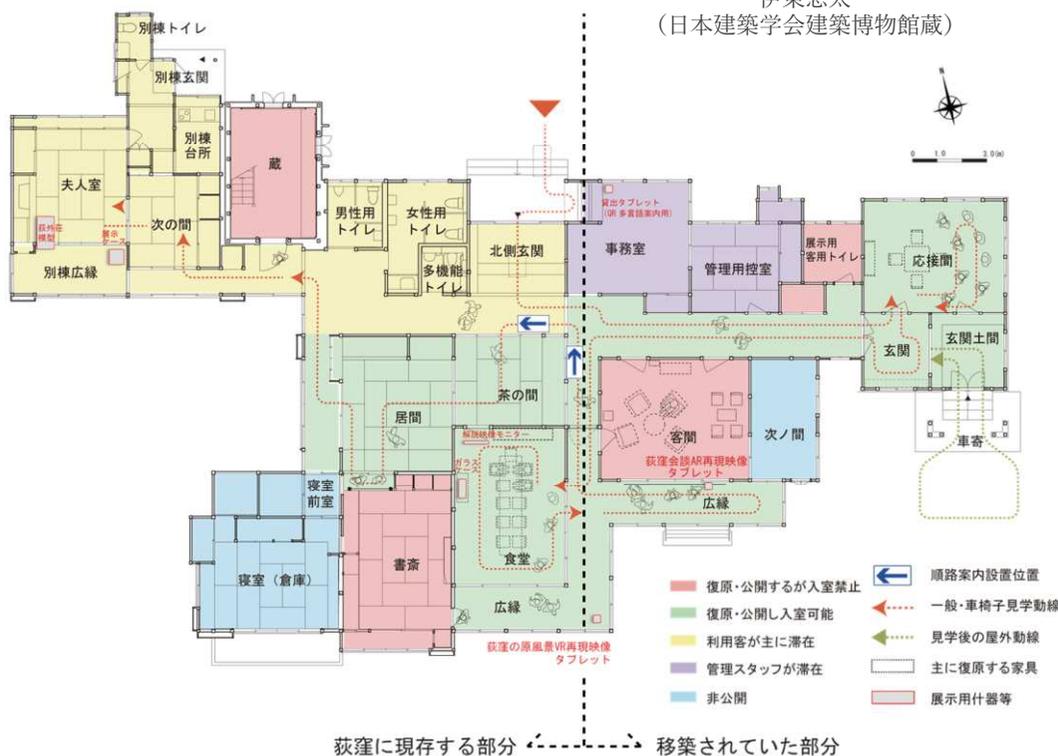
築地本願寺などを設計した

日本を代表する建築家 伊東忠太が手がけた  
現存する数少ない邸宅建築である萩外荘。

できる限り当時の部材を使用して復原する一方、  
訪れる皆様が安全に滞在できるように  
防災・耐震対策も施します。

全ての補強は、壁の内部や屋根裏等に行い、  
室内からは見えない工夫をします。

客間や応接間など主要な部屋は、  
古写真や文献、類例の調査に基づき、  
内装・家具・調度品についても復原します。



# 05 庭園

緑ゆたかな  
住宅地の庭園景観を残しつつ、  
アカマツに囲まれ、  
カエデ類が植栽されていた  
近衛文麿時代の  
萩外荘の庭園の姿を  
段階的に再現していきます。

東西をつなぐ通路側にアカマツ、建物側に  
イロハモミジを移植し、景観を整える。

既存の樹木も活かして  
静寂な雰囲気を守りつつ、  
来園者が歩きやすい  
空間づくりを行う。

新たな植栽で  
景観を整えつつ、  
現在の井戸などは  
そのまま保全し、  
大きな変更を加えず  
残していく。

既存のスタジイ、サワラなどの  
大径木を保全し、  
屋敷林の景観を残していく。



南側広場からの景観は、  
古写真にもあるような、アカマツに囲まれ  
斜面地にツツジが植えられた、  
印象的な景観を再現する。

南側玄関周辺は、古写真から、報道等で知られる  
姿をよみがえらせるとともに、近衛文麿の生活を  
感じることができる空間を再現する。

当時からの樹木を残して  
遮蔽植栽とするとともに、  
段階的にアカマツなどを補植し、  
古写真に残る東側の景観を  
再現する。



# 06 完成イメージ

あの日  
の萩窪へ  
…

あの日  
の「萩外荘」

